

【第2部 パネルディスカッション】

権兵衛峠道路のストック効果と地域の将来像

コーディネーター

高瀬 達夫 氏（信州大学工学部 准教授）

パネリスト

白鳥 孝 氏（伊那市長）

西倉 良介 氏（高山市 副市長）

川上 健夫 氏（伊那商工会議所 会頭）

須藤 邦男 氏（木曾町観光協会 事務局長）



（高瀬）ただいまご紹介いただきました、信州大学の高瀬と申します。この度コーディネーターを務めさせていただきます。

よろしくお願ひします。

まず、このディスカッションですけれども、先ほど、基調講演で小野寺様より、権兵衛峠道路完成までの経緯や工事について分かりやすくお話いただき、地域の交通ネットワークが形成

されていて、そのストック効果が発現して、そして地域の活力を生み出す取り組みが必要であり、最終的には、地方創生ということをお話しいただきました。さらに油井様には、ストック効果、それを産業、利便性、安全・安心、災害に強いという4つの側面から分かりやすく説明していただきました。

ここでは、それぞれ異なったお立場の方々から、実際に実感されている効果をお話しいただき、さらに、先ほど油井様のお話にありましたが、地域づくりをどうしていくか。ネットワーク

ができたとしても、地域づくりをどうしていくか。逆に言えば、地域づくりをどうしたいから、こういうネットワークにしていくんだということが最終的にストック効果を最大限に上げていくということでしょうから、地域の将来像をどう捉えられているのかお話しただくかたちで進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず初めに、それぞれのお立場から、地域等のピーアールをお願いし、さらには、皆さんご承知だと思いますが、簡単な自己紹介をお願いいたします。



(白鳥)伊那市長の白鳥でございます。簡単な自己紹介といたしますか、伊那市の紹介が、今ちょうどここに出ておりますので、こんな風景のところでは、

こんな風景のところでは、



私が住んでいるのは、権兵衛トンネルの伊那側出口の近くで、最初に信号があるのですけれども、信号からわずかに北に5分ぐらい行ったところでは、権兵衛街道というか、トンネルが開くまでのあの道の姿をずっと見て参りまして、ほとんど車が通らなかつた訳です。工事が始まって、トンネルが開通して、

車が毎年、年を追うごとに増えているという状況をこの10年、また、昔からずっと見てまいりまして、ある意味、トンネル効果の驚きというのを実感しています。

私の家内が、ちょうどトンネル開通と同時に、就職先が木曾に変わりました。トンネルを越えて毎日通っていました。木曾の木曾福島ですから、だいたい30分ぐらいで行かれますので、本当に素晴らしい道路が開いたなと思っておりました。

今では、観光のシーズンになると、休日はなかなか、権兵衛街道といひますか、361号を渡ることができないときもあります。そのようにして、道路というもの、トンネルというものが、これほど地域の経済、あるいは観光、いろいろな産業に影響を及ぼすものなのかということを感じております。

また、後ほどお話をさせてもらいたいと思いますが、約12年後に開通するリニア中央新幹線のこと、その前にあるオリンピックは、あと5年後です。その間ぐらいに、三遠南信自動車道が開くと思います。こうした歴史的な変化がこの伊那谷に次々と及んでくることとなりますので、そうした変化を間違いなく捉えて、この361号を上手に使いながら、木曾と、高山と、それから日本海へといったところを広く周回ルートとして捉えていく、その戦略を今から関係する皆さんで立てていくべきだろうと思っています。

道路というのは、地方にとってみると、本当に命の道と言ひながらも、私は、地方創生＝道路であると言ひてもいいと思うぐらい期待しておりますし、

その効果をさらに高めていかなければいけないと感じています。とりあえず、そんな紹介です。

(高瀬) ありがとうございます。それでは、高山市の西倉副市長さま、よろしくお願ひします。



(西倉) 改めまして、高山市の副市長をやっております、西倉と申します。今日はトークが得意な市長の國島芳明が来て、

しっかりとお話しさせてもらうべきところだったのですが、トップセールスということで出張しております、代わりに、トークはちょっと苦手な副市長ということで、ご勘弁をいただければありがたいなと思っております。

まずもって、権兵衛トンネルの10周年、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。実は、私も職員上がりでして、ちょうど、このトンネルが開通したばかりの頃、当時の上司などを連れて通らせていただいた思い出があります。自分は、昔の峠や道路をよく知らなかったのですが、上司は「すごいトンネルができたな。これでまた地域が変わるな」と言って、長いことかけた要望活動をやった本当によかった、地域の皆さん、よう頑張らしたなという話をしていたのを記憶しております。早10年ということで、本当に早いものだと思っております。

お話を聞く中で、木曾と伊那のお話がずっとありました。トンネルによっ

て、こんなに変わったというお話がありました。ただ、私も、10年前に行つて以来、今日も権兵衛トンネルを通過して来ましたが、数えるほどしか利用していません。もっと利用するようにさせてもらえればと思つてもおります。

このトンネルを含むルート361号、これが高山まで続いているということで、ぜひ高山の方もお忘れなく、ちょっと頭の隅に認識していただくとありがたいなと思っております。その辺で、私は高山のお話をさせてもらいに来たということで、今日は、部長と一緒に来たのですが、来る途中で、今日は何を話したらいいのかと聞いたら、彼が2つ言ったんです。

1つは、高地トレーニングエリアが、今、高根にあります。このトンネルの後に、361号の高山エリア周辺をしっかりと工事することによって、この高地トレーニングエリアをさらに機能アップし、活性化につなげていくということをお願いしたいと。

もう1つは、ストック効果というものがありますが、高山と信州をつなぐのは、158号と、この361号と2本しかないんです。そういった意味で、158号は、高山エリアから、平湯、そして安房トンネルを越えると、今度は上高地の方が、小さいトンネルがいくつも出てくる非常に険しいルートになっています。逆に、この361号の方は、開田から高山の高根の方へ入ってきますと、皆さん、よくご存じだと思いますが、本当に高根のダムをつくった当時の工事用のトンネルが3つも4つもありまして、それこそ大型バスが入ってこない、そういうエリアがあります。

それでも2つのそれぞれの道が、何ぞのときにはバックアップ機能を発揮して、しっかり機能する。そうした道なので、それを大事にしていきたいという2つをお話しさせていただくつもりでおります。

もう1個は、これからは、広域で連携する時代なのかなと思っています。高山エリアも、観光客が、去年は400万人の方がいらっしゃいました。うち200万人が日帰り、宿泊客が200万人いらっしゃいます。そのうち、海外からのお客様が28万人で、30万人近くいらっしゃいます。今年は、今までの動向を見ますと、さらに3割くらい増えていないかと思っています。市長は、観光客500万人の、海外から50万人ということで、目標を高く挙げていますが、そうした目標も、本当に夢ではないのかなという風に思っています。

そうした取り組みを含めて、広い地域での連携というものは、今後ますます必要になるのかなということで、そうした部分もぜひお話をさせてもらえればありがたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(高瀬) ありがとうございます。それでは続きまして、川上伊那商工会議所会頭さま、お願いします。



(川上) 川上です、よろしく願いいたします。

先ほど紹介させていただいたように、私は、こ

の伊那市の工業団地にあるサン工業株

式会社で、メッキをやっていて、従業員が150人です。その社長ということと、あと、伊那商工会議所の会頭ということで、今年2年目になります。

実は私は、副会頭を9年間させていただいて、今、会頭という立場をいただいております。副会頭的时候は、工業の担当でやらせていただいて、今は、観光とか商業は全部、見始めたのですが、そういった中で、私が副会頭を受けて2年目にこの361号の権兵衛トンネルが開通したということで、そのときから、我々の周辺の物の流れ、それから工業の動き、商店の動き等、大分変わってきたなと実感して参りました。

その中で、私は、生まれも育ちもこの伊那です。市長さんから先ほど今お住まいのところの説明がありましたが、私は、市長さんのところから車で5分もかからない、あの361号の街道に非常に近いところにおりまして、その変化も今までずっと見て参りました。

私は、趣味が歩くことで、旧権兵衛峠を頂上まで行って帰ってくると往復5時間ちょっとかかるのですが、年に1回はそんなことをしています。今は、まったく車が通らないものですから、快適に歩けるのですが。

そんな中で、あの景観を見たとき、この素晴らしさはやはり、もっともっと多くの人に知っていただきたいなと思っていて、西箕輪のあたりも、よく散策しています。ああいった道を多くの人に親しんでいただいて、伊那の素晴らしいあの景観をもっと知っていただくためにはどうしたらいいかなということも考えながら、やっております。

また、そうした中で、今、人の流れ

が大きく変わりつつあることを実感しております。うちの会社も、また後にお話しさせていただきたいと思っておりますが、関東方面に行くときは、バスや中央線を使いますが、関西方面は、がらっと変わりました。今までは本当に不便でしたが、あのトンネルを越えて、木曾福島から中央西線を利用して名古屋へ行って、それから新幹線で移動するというのが圧倒的に多くなってきました。そういった、うちの会社の中の営業や、それから物流の関係も、トンネルが開通したことで劇的に変化しているなど思っております。

また、観光などの全般の話をもたせていただきたいと思います。上伊那は、工業の関係は、実は長野県で3番目の出荷高です。諏訪などよりも上伊那地域は多いわけで、そういう意味で活性化してきているのも、このトンネルが開通したことも非常に大きな要因の1つかと思っております。開通の効果を実感しているのが実情です。私の紹介は以上で終わらせていただきます。

(高瀬) ありがとうございます。続きまして、木曾町観光協会の須藤事務局長様、お願いします。



(須藤) 皆さん、こんにちは。木曾町観光協会の須藤と申します。よろしくお願いたします。

権兵衛トンネルの開通10周年、本当におめでとうございます。私は、会頭と違ひまして、新潟生まれの新潟育ち

でございます。昭和30年に生まれました。



木曾町の観光

国道361号線権兵衛トンネル開通

祝10周年

開通がもたらした影響

2015年11月26日

木曾町観光協会 事務局長 須藤 邦男

ちょっとご縁がありまして、30年前に白樺湖池の平ホテルに10年お世話になりました。その後、南木曾町にホテル木曾路がオープンするということで、平成22年まで、南木曾町で仕事をしておりました。また、その後、飯田の水晶山温泉で約8カ月、お世話になりまして、木曾町のほうで声を掛けていただきまして現在に至っております。まさしく30年は信州に住んでおりますので、信州人と自分では思っているのですが、「信濃の国」がまず歌えない。これが歌えないから信州人ではないと言われておりますし、木曾に来てから、もう20年経つのですが、「木曾節」も歌えないのですね。そうすると、「木曾の人間なら歌えるだろう」と言われるのですが、踊りはできますが、歌は歌えません。しかし、よそ者という風には思っていないで、本当に信州が好きで30年住まわせていただいております。

その中で、ちょっと気になったことではないですが、木曾から離れられなくなったというよりは、住み心地がいいというのでしょうか。最初は、本当に田舎みたいで、こんな暗いところでは生活したくないなと家内は言ってい

ました。テレビも2チャンネルぐらいしか映らなくて、陸の孤島というようなところでしたが、住めば都でございまして、人の温かさ、そういったものが非常にいいところだということで、大好きな木曾でございませう。



皆様に、これから画像を見ていただきながらですが、私がお話ししないといけないのは、開通前に、名古屋で、トラベルニュース社さんだっと思ひますが、この開通に向けて、今後の観光をどうするかという座談会に行ったときのことを思い出しております。そのときは確か、高山は、高山グリーンホテルの前の社長、新谷社長さんと、そして、中央アルプス観光大阪営業所の前の所長さん、今はこちらの方にいらっしゃると思ひますが、竹村さん、そして、駒ヶ根のホテルやまぶきの宇佐美社長と、熱く語ったのを覚えております。

何を熱く語ったかというとう、当時、高山からは、首都圏からのお客様が少なく、そして、木曾や伊那の方からは周遊型ができていないということで、何とか宿泊施設や観光事業者が手を組むことによって、今までに回ってこなかったところの、インバウンドを含めてですが、広域観光はできるのではな

いかと、そういう期待に熱く燃えて語ったことを覚えております。それは昨日のことうのような感じですが、それはさておきまして。



観光面におきましては、この場をお借りしまして、昨年9月に御嶽山の噴火があり、今日お集まりの皆様を含め、多くの関係の方から応援・ご支援をいただきまして本当にありがとうございます。何とか1年が過ぎまして、元気に過ごしている今日このごろですが、一番元気にさせてもらっているのは、郷土の力士、御嶽海が幕内に入って勝ち越してくれていると。とにかく、一番、木曾を元気にしてくれているのは御嶽海関だねと、先ほども町長とも話していたのですが。御嶽海に負けぬような元気を木曾から発進していこうと、そんな風に思っております。

あまり、ここがいい、あそこがいい

と言っているとお叱りを受けそうなので、自慢としては、伊那市、伊那谷にないもの、そして高山市さんにないものを木曾が持っている。そして、まさしく伊那と高山をつなげるのは木曾ではないのかと思っていますので、よろしく願いいたします。



御嶽山3,056m 九蔵峠から



御岳ロープウェイ 雲海



木曾川ラフティング



マイアスキー場
スノーシュー体験(心の洗濯ロード)

(高瀬) ありがとうございます。皆様、色々とお立場、ご経験が違う方々がそろっていらっしゃるのがよく分かったと思います。そこで早速、今回のテーマでございます「ストック効果と地域の将来像」ということで、詳しく話を進めて参りたいと思います。

まず、最初の自己紹介の中でも多少、皆様に触れていただきましたが、効果が実感できるということです。もう少し具体的に、それぞれのお立場からの整備効果などについてお話をいただきたいと思いますので、まずは、伊那市長からお願いいたします。

(白鳥) 昨年9月末ですが、今、話のあった御嶽の噴火がありました。ちょうどそのとき、伊那市を主会場にして、日本ジオパークの全国大会をやっておりました。4日間にわたって、6,500人というたくさんの方がお見えになって、

そのさなかに噴火ということでした。

先ほどちょっと触れました私の家は、権兵衛ルート361の近くにありますので、夜中に、赤色灯を回しながら、何十台という車列がずっと登っていくんですね。最初、何だろうと思ったのですが、すぐに分かったのは、救援隊が名古屋や東京など色々なところから、伊那インターで降りて、トンネルを通過して木曾の方へ入っていくという、その姿を夜中の2時ごろに見ました。あのときに、やはり、トンネルがなければ、あの道路がなければ、災害時には別のルートしかない、もっと時間もかかるわけですので、災害時の効果というのは極めて大きいなと感じました。

先ほど説明があったように、事故があった、災害があったときに、いろいろクロスしながらルートを使いますよという地図が出ました。そのときのこともありましたし、色々なことが、道路の果たす役割の一つとしてあるのだけれども。災害時には非常に大きな効果を出したなというのが、この効果の一つかなと思います。



あと、私は、景観にはことのほかこだわっておりまして、権兵衛トンネルを出た伊那側から見る南アルプスというのは約100キロに渡って全ての山を

見ることができます。それはどこにもない景観ですし、世界に誇れる景観だと思いますので、道路を利用する皆さんが楽しみながら行くことができる、景観の保全もしっかりやっていくべきかなと思っています。

あそこに電柱が何本かありますので、何とかどかしたいなど。埋設は難しいのでしょうけれども、あれをどかすと、景観というのが、もっと皆さんの目に飛び込んでくるのではないかなと思いつつながら、また、トンネルを越えて木曾に入って、長峰峠という長野県の峠を越えて高山に行く途中、御嶽山の広大な、雄大な風景と、開田高原の広々とした、伸び伸びとした風景。5月の連休あたりに通ると、若葉の中で本当に素晴らしい風景があったりするので、街道の楽しみ方としては、やはり景観を361号の効果の中に組み込むのが一つ大事かなと思います。

(高瀬) 例えば、そのイメージを伝えていくという手段として何か、景観がいいのは分かるのですが、本当に効果を発現していこうとするとどのように伝えていけばいいとお考えでしょうか。

(白鳥) 通り過ぎるだけだと難しいですね。やはり、そこで少し留まる場所、ポケットパークみたいなところがあるのもいいし、先ほどの「道の駅」も一つの手段かもしれないですね。そうした景観をじっと楽しんだり、絵を描いたり、写真を撮ったりするとか、また、しばらく歩くようなところも少し残しておくといいかもしれません。いろんな手法はあると思います。

(高瀬) そうですね。整備効果を発現させていく方法として、単に道路が、先ほどの移動手段ということもあるのですが、それをいかに移動手段というだけではなくて、その途中を通るというイメージが利用者の心に訴える。それが次へのリピート、それから口コミでどんどんつながるようになるのでしょうか。分かりました。ありがとうございます。

続きまして、高山市副市長の西倉様、高山市は、先ほどご紹介いただきましたが、観光客が400万人、うち外国人が30万人もいらっしゃるという、うらやましいところです。権兵衛トンネルが開通して10年経ちましたが、何か変化はありますか。

(西倉) 先ほどお話しさせてもらったことの一つで、高地トレーニングというものがあつて、これは国のナショナルトレーニングセンター、競技別の強化拠点施設ということです。御嶽山の麓に、飛騨御嶽高原の高地トレーニングエリアが、高山そして下呂のエリアであります。ここでの高地トレーニングは、気圧が低くて酸素濃度が薄い、そうしたところでいろいろなトレーニングをすることによって心肺機能を高めることができます。大会等の前に強化をして、そして実際に大会に向けて平地に下りて大会に臨む。そうすると、成績がすごく上がるということです。

具体的に、箱根駅伝で先般優勝された青山学院の陸上競技の皆さんは、ずっと御嶽のトレーニングエリアを使っ

ていらっしゃいます。先般、中国で開催されました世界陸上でも、フランスやイギリスの選手達がトレーニングをされて優秀な成績を収めていらっしゃいます。

観光客に多く来ていただいておりますが、それぞれの目的がいろいろあるのかなと思っております。観光の見学とか、文化、伝統、そうしたものを視察されたり、さらに産業観光ということで、高山でしたら木工業や、色々なそうした勉強や家具の研修などもあるでしょう。お酒や食べるもの、そうしたものの取り扱いのために来られる方もいらっしゃいます。

今、361号の関係でいえば、最も強く思っているのは、このナショナルトレーニングエリアの、御嶽高地トレーニングエリアです。

先般、岐阜県知事と、今の昇龍道の関係のスタッフ、さらに高山市長も一緒に、フランスを回ったときに、フランス陸連やイギリス陸連の皆さんの声の報告もさせていただいて、そして、あそこでトレーニングしましょうよというような協定を結ばせていただいております。今後、2020年のオリンピックに向けて、そうした海外からのお客様をぜひ、あそこで、これはアメリカにも今アタックしてしまして、その道筋ができつつあるのですが。そういった多くの国々の方達に来ていただいて、トレーニングをしていただくような拠点にしていきたいと思っています。

具体的に、今日はリーフレットを持ってきました。ここへ来るアクセスが後ろの方に書いてあります。JR利用や、マイカー利用、高速バス利用など、

それぞれ的手段によって、こういったルートを使って来ていただけますという記載があります。特に首都圏からのマイカー利用、バス利用につきましては、東京から、伊那インターを降りて権兵衛トンネルを通過して、木曾福島、そして御嶽の方へ向かっていただくということで、だいたい4時間ぐらいかかりますよということをしつかりとうたわせていただいております。

こうしたものは、今、新しいパンフレットを持ってきましたが、これまでも同じようにルートをお知らせしてやらせていただいております。具合的に数字を拾ってきたのですが、権兵衛トンネルの開通前、平成17年には、御嶽トレーニングエリアは62団体1万人の選手の皆様にご利用いただきました。これは、塩尻市内からルート19号を通過して、トレーニングエリアへ来ていただいたかと思っております。

トンネルが完成してからは、さらに時間が30分は短縮したと思っております。マイカー等の利用者につきましては、しっかりと宣伝をすることによりまして、平成26年度の数字で言いますが、今現在、272団体、約2万1,000人の皆様にご利用いただいているということです。10年前と比較すると、ピーアールの仕方や、さらに注目度のアピールということもあるかもしれませんが、そうしたルートをしつかり定着していただいたということで、2倍から3倍の皆様にご利用いただいているような実績があります。

これからも、しっかりとした道中の安全な走行の確保、そうした意味からも、整備はさらに強化を、関連自治体、

さらに国交省の方へも要望を出しながら、また、県とも一緒になって取り組んでいきたいと思っております。その辺で、具体的に目に見える状況の報告をさせていただきます。

(高瀬) ありがとうございます。観光という面で、例えばデータを採られているか分かりませんが、もしあれば教えていただきたいのですけれども。高山に行かれています方は、その前に、木曾等から行く、もしくは、高山から木曾へ行くというような観光客は、どれぐらいいらっしゃるのか。そういう何か調査はされていませんか。

(西倉) 361号を通過して観光客の皆様がどのくらい流通してみえるのか、具体的な数字は今採っていません。

(高瀬) 361に限らないのですが、例えば、高山市に観光に来られている方が、その直前、どこにいたのか。高山市の後、どこに行くのか。木曾や伊那谷までも含むかもしれませんけれども、何か一度、そういう調査をしていただけるとありがたいという気もします。

(西倉) ありがとうございます。ぜひ、やらせていただきたいと思えます。

ただ、今、高山が広域連携で観光を進めておりますのは、北陸エリアでしたら、金沢、白川、高山というグループがあります。さらに、金沢、高山から、信州側の松本市と連携するようなグループがあります。とりわけ、「3つ星街道」ということで、それぞれ特徴を持った市が連携しながらグループを

つくって誘客活動を進めましょうというのが今の流れとしてあります。特に、そういった意味では、信州側でしたら松本市との連携の中で、今の調査を具体的に進めるというお話はございますが、ぜひ、こちらの木曾や伊那市さんとの連携の方も、また調査をさせてもらえばと思っております。

(高瀬) よろしく申し上げます。

それでは、続きまして、伊那商工会議所の会頭でもあり、会社社長としてもご活躍の川上会頭様より、産業面や、先ほどの従業員の方が木曾から通うという話もありましたが、そういった観点を踏まえ、実感と効果についてお話しただけならありがたいと思えますので、よろしく申し上げます。

(川上) 最初に余談をさせてもらって申し訳ありませんが、私はさっきのウォーキングが好きだという話で、日本全国で100キロウォークという大会があって、伊良湖、北海道の屈斜路湖、摩周湖で100キロ歩く大会があるんです。私は、伊良湖のときに600人中で8番で、北海道のときは100人中、1番でした。何かなと思ったら、ここは、標高が600~800メートルあって、高地トレーニングをやっているんだなと思ったんですけれども、これから高山へ行って、もうちょっと鍛えた方がいいかなと、今、伺って思いました。

(西倉) 高山で、100キロマラソン(「飛騨高山ウルトラマラソン」)もやっているんです。ぜひウォーキングで参加をしていただけると。

(川上) はい、ありがとうございました。そうした景観もいいですし、先ほど市長さんがおっしゃられた西箕輪のところから仙丈ヶ岳を見ながら歩くのが好きで、歩いているのですが、そうすると面白いんですね、大型農道のところにパチンコ屋さんがあるのですが、その近辺を歩いていると、木曽の方から361号で来て、それから真っすぐ入らなくて、ちょっと裏道に入ってからパチンコ屋さんに入るという車が大変多くて、私が歩いている中で、だいたい一日に5~6台います。それだけ交流していると思います。

それから、あのトンネルは、通行料が無料なんですね。そういう意味で非常に来やすい、そういう経済効果もあるなという風に実感しております。ということで余談なんですけれども。

会社のお話をさせていただくと、うちの会社は、大阪から講師の先生を毎月1回呼びして、月に1回、勉強会をやっていて、15年続いています。最初の頃は、やはり塩尻まで行かれて、塩尻まで迎えに行ってお社へ来ていただいていた。それが、このトンネルが開通したことによって木曽福島で降りていただいてお迎えに行くということで、その先生も非常に助かって、「利便性がよくなりましたね」というお話を受けております。

先ほど社員の話がありましたが、社員に木曽福島の子がいます、毎日通ってきてもらっています。一昨年、結婚して、去年、子どもが生まれました。今度、新居を建てるということで、じゃあ、伊那に来るのかと聞いたら、「やはり、木曽がいい」ということで、実

家の隣に家を建てると。やはり、通ってくれるという話です。それも、あのトンネルがあるおかげで、そういうことが実現しているということです。

それから、社員の募集も、今まではこの近辺が多かったのですが、今は、そういう意味で木曾まで募集をかけています。そういう可能性が非常に広がってきているなと思っております。

それから物流の件ですが、うちの一番のお得意様は、実は岡山にあります。岡山から部品が名古屋に行って、名古屋で加工されたものがうちに来て、うちがまた岡山に納入するということになっています。そういうときも中央高速をメインに使うのですが、中央道が何かあったときには、あのトンネルを使って19号で移動できるということがあって、そういう意味のセーフティゾーンとしても非常に有効かなということで、ありがたく思っております。

そうしたことがあって、うちの会社の関西方面の商圏が非常に充実することができたということがあり、そういう意味の物流効果は当社にとっても非常に大きいなと思ってしています。

それから、商工会議所の立場から見ていると、観光というのはこれから非常に大きなテーマかなと捉えています。多分、伊那市、箕輪町、駒ヶ根市さんなどの市町村単位ではなくて、やはり上伊那とか、上下伊那、そういうエリアでこれからは観光を考えるべきだと思っています。

そうした場合に、高山、木曾、伊那それから秋葉街道を通過して、豊橋というようなことも、これから観光にとって大切だろうなということがあって、

うちにも地域資源活用委員会がありますので、そこで、去年、高山市に行って観光させていただいて、そういうルートができないかなということもやって、また、交流も始めております。

木曾で6月にある木曾漆器祭りに行って、交流したり、来ていただいたり、そのようなことも始まっておりますので、そういう意味で非常に楽しみかなと思っています。

先ほどの油井建設技監さんからのお話で、361の麵フェスタがあって、それを今年も10月30日と11月1日に高遠でやりましたが、もう5回目だと思います。そういった意味で、高山市さん、それから木曾、伊那高遠、そういう交流が高まっていて、そういう広域の観光がこれから非常に楽しみになってくるのだろうなと思っています。

広い視点に立った地域の活性化、また、観光の活用というものは、この361号が開通することによって、色々な面で選択肢が広がってきていると実感しております。

(高瀬) ありがとうございます。先ほど小野寺部長さんが言われていた、リニアができたときに、リニアで飯田から上伊那に上がってきて、権兵衛トンネルを通過して、木曾、それから高山、それで白川郷に抜けて、北陸新幹線へつながるといふ、そういうことをちらっとお話しになっていました。

そういった広域ネットワークを考えていく上で、今は、木曾谷と伊那谷は平行に走っているのだから、それを横につないでも、観光客にとっては、首都圏等もそうですが、行って戻るといふこ

とがなかなか難しい。せっかく行ったら、そのまま一筆書きでどこかへ行きたいというところがあると思うのですが、そういった長期的なことを考えた上で、地域で何かしていこうかなというようなものは考えておられませんか。

(川上) やはり、リニアの開通というものは、これから大きなインパクトを我々にとっても与えてくれるのかなという期待があります。

先ほど高山市さんの話があったように、高山に行くとき外国の方が本当に多いなと思います。今、松本も海外の方が結構多くなってきている。ところが、この地域にはまだ、余り来ないですね。

ですから、先ほど言った361、それから権兵衛トンネル、また、リニアというのがあると、今度は線で結ばれて、それが結構太いパイプなるのかなということに非常に期待しているわけですね。その辺のところと、どうやって誘客するのかということが我々の知恵かなと思っています。いかにそういうことのメリット、そういう環境の変化を有効に生かすのかということが、我々にとってのこれからの大きなテーマかと思っています。

(高瀬) ありがとうございます。そうですね、油井さんが奈良井宿に行かれたときのお話をされていました。私も、半年ほど前に行ったときに、まったく同じことを感じました。外国人の方ばかりだなと。後でまた話をさせていただきますが、なぜだろうということは同じように思いました。

続きまして、先ほどご自身でお話し

いただきましたが、伊那と高山を結ぶというつなぎのちょうど真ん中に位置する木曾について、須藤様からお話しただけだとありがたいと思います。

(須藤) 木曾路は、南北に長いのは皆さんご承知のように、確か、私が来たときに、清内路トンネルがまず 256 号で抜けて、下呂から妻籠宿を抜けて、昼神温泉、飯田の方に抜けるルートが非常に活発に動くようになりました。

そして、権兵衛峠道路が抜けた後には、やはり同じように、奈良井宿を含めて、関東方面から人が入り、活発に動くようになりました。ですが、正直言いますと、木曾の中心部には、人がなかなかやってこない。両側だけが、中央道絡みで抜けていくというようなかたちがありまして、何としても中心部に来てもらわないことには、まったく通過もされないというようなイメージを受けた時期がありますし、今も、そういったルートで行かれるケースが多いです。

この期待というのは、権兵衛トンネル開通後の 1 年目は、伊那と木曾を結んで「ごんべえ号」というバスが 1 年間、確か走ったと思います。私ども木曾町観光協会に聞きましたら、ちょうど 2 年目になると、JR 東海さんのお口添えで、高山線と中央線を結ぶ木曾福島高山ルートというバスを、毎日走らせられないけれども、何とかレールで結んで、横軸をバスでということをやった 2 年目のときでしたが。利用が少なかったということで、JR さんがまず手を引かれました。だけど、地域としては、何としてもリクエストが

あるので、確か 4 年続けてやったと思います。

この 4 年間は、ニーズがないのではなくて、ずっと走らせる訳ではないので、利用者が分からないということ。また、高山市さんの方からも「外国人はもう何度も来ているので、そろそろ木曾のルートを紹介したい」と言われるのですが、いつ走っているか分からない、使えないと、そんなことがありまして、残念ながら、その翌年、平成 26 年からは運行していません。

よかった点は、難所である高根のトンネルも濃飛バスさん、おんたけ交通さんの大型バスがちゃんと通っていますというアピールは、できました。ですので、大型バスも、来られないのではなくて、来ることができませんという案内をしながら、ひたすら、途中で止まっているトンネルを、ちょっと胃が痛くなるような感じで、早く抜けて欲しいな、ここが抜ければ、夜明け前が夜明けになるよねみたいな。

すみません、今日は副市長さんがいらして、先ほど伺ったら、もう平成 29 年には早々に開くという心強いお言葉をいただきましたので、この先がちょっと明るく見えてきたところでございます。

高山市さんに非常に意識しているというのは、私どもだけではなくて伊那市さんも含めてなのですが。先ほどの「400 万人」が魅力のあるところで、あれだけたくさんのお客様を集客しているところが、全部、ゴールドンルート、言い方がちょっと悪いのですが、安房トンネルには、松本、上高地を抜けまして、平湯、そして高山と、これ

を「ゴールデンルート」と呼んでいます。

そして、私どもの361号は、ゴールデンにはならず、プラチナルートぐらいにしておこうと。要は、往路をそちらで使ってきたら、復路は、帰るときは別の道で行きましょう、その逆であってもいいのではないかとということで、その話をずっとしてきているところです。いつかは、そういう日が間違いなく来ると思っています。

高山市のブランド・海外戦略部の部長さんの講演を昨日聴いて、ちょっと驚いたのは、30年、インバウンドをやっていると。そして、高山市さんは、人口は確か9万1,000人ぐらいで、そして面積は、なんと東京都と同じぐらい広く、日本で一番広い面積をお持ちだと。その人口の3倍以上の外国人の方が泊まっているという話を聞きまして、要は、昨日、今日ですぐやったのではなく、「30年かけて、観光をずっとやってきたのではなくて、まちづくりをやってきました」ときっぱり言われまして、私どもも、まず見習うべきところをしっかりと見習っていかないといけないなと思いました。

そのお話しの中で、民間の方でとても一生懸命やられるリーダーの方達がいて、これは商工会議所の関係の方なのか、コンベンション協会の方なのか分かりませんが、それに、行政の方も一緒になってやって、今があるんですよというふうにおっしゃっていましたので、これは本当に学ばなければいけないと思っています。

すみません、回答にはなっていないんですけど、お知らせです。



(高瀬) ありがとうございます。確かに高山市さんというのは非常に魅力で、それをいかに取り込んでいくかということなのですけれども、先ほど「イメージ」という、道路のイメージですね、ゴールデンルートに、やはり価値はプラチナの方が高いですよ。なので、それを目指していただきたいと思いますが、確かに、そういうイメージ、先ほど白鳥市長もおっしゃられた「景観」という部分もありますが、道路を利用する方は、何となくイメージで、ああ、ここを通ろうかなとか、まず一つには、多分、通りやすいから通ろうかなと、もう一つは、ブランディングの強いところに引かれていくことと、やはり2つあると思います。

そういったものを考えながら、どうつくっていくかということが一つ大事かと思っています。

あとは、外国人観光客の方の話が色々出ました。昨年来、松本も非常に伸びています。松本城は、外国人の方は前年比8割増とか、そういったものがありまして、なぜかなと思って色々調べました。

どうやって調べようかと思ったときに、まず自分たちが外国に行くことを考えてみようと、何を調べているかなと思ったら、本の名前を挙げて

いいのかわかりませんが、「地球の歩き方」を見るのがたぶん多いと思います。今は、ネットと言いましても、ネットは2番目に調べるものですね。初めて行く外国で、ネットだけで調べて行くことはなかなか勇気の要ることで、やはり、ガイドブックは必要だなと。

では、今度は逆に、外国の方がどんなガイドブックを買われて日本に来ているのかなと、各国のガイドブックをいろいろ集めてみました。ここには世界最大の発行部数と言われている「ロンリープラネット (Lonely Planet)」という、最近、テレビの番組などに出てきていますが、その本です。これはオーストラリアですが、英語圏では全部使われています。イギリス、アメリカ、カナダ、あと、皆さんに有名なフランスの「ミシュランガイド」、お隣の韓国なども調べてみました。

ただ、残念なことに、韓国とフランスのものは言葉が分からないので何を書いてあるのかわかりません。一応、英語圏に限っていろいろ調べたのですが、載っているのは、やはり、高山市、金沢と松本は、中部地域としてページ数を割いて書いてあります。木曽は、妻籠と馬籠は当然のことながら、奈良井宿も必ず、すごくいい書き方をされています。「伊那谷」は、というと、残念ながら、ほとんどのそういうガイドブックに載っていません。一切スルーされています。さらに、木曽がどういう扱いになっているかというと、これまでは、松本の延長、アROUND松本みたいな感じで、木曽の奈良井宿と妻籠、馬籠、そのかたちで載っていたんですけど、そして、高山は、その

前後ですね。松本の前に来るか、それとも木曽路のあとに来るかというかたちでした。

一番新しい最新版では、木曽のあとに高山が来て、そのあとに松本が来ている。完全に、岐阜エリアの延長、飛騨、それから木曽、そして高山に行つて、松本みたいな書き方になっています。そういったこともありまして、奈良井宿は意外にキーポイントでちょうどいい位置にありまして、多分、お客さんが、外国人の方がいらっしゃるのもすごくよく分かります。

何が言いたいのかというと、例えば伊那谷も、これから、それぞれ多分外国人向けのパンフレットはつくられていると思いますが、残念ながら、それは、来ないとしようがないということです。どうやったら載るかは、また別の話としても、隠れた魅力は、伊那谷は非常に持っていると思います。いずれ、日本に来る外国人が非常に増えてくれば、隠れた日本の名所みたいところで伊那谷が出るかもしれませんが、そこまで待ってられない場合は、もう少し伊那谷がルートをうまく確保して、アピールすれば十分対抗できるようなものなので、ぜひ、そういったものが一つの要因なのではないかと。

全部ではないと思いますが、そういった外国のその国の一番メインのガイドブックに載っていないのはないなという気はします。すみません、ちょっと収集はつかなくなりましたが、それぞれのお立場から、実感されていること、効果を実感されているお話をいただきました。ここからは、地域の交流ネットワークが、これ

からどんどん、先ほど白鳥市長さんがおっしゃっていましたが、リニア、三遠南信自動車道ができて、あと伊南バイパス等いろんなものができてくる。広域ネットワークがどんどんできてくる。その上で、将来、地域をどうしていくのかに関して何かご意見がございましたら、お願いします。

(白鳥) 先ほど川上会頭の方から、社員に木曽の方がいて、家を木曽につくと。これはまさにトンネル効果だと思うんですね。

今、地方創生、定住、移住という話がありますが、要は、働く場所があるかどうかポイントです。そうしたときに、今までは、木曽で生まれた子どもたちが大学に行くなり専門学校に行くなりして、いったん木曽を離れて、でも帰ってきて、では働く場所があるかといふとなかなかなくて、やむなく違うところに就職をしたと。

ところが、トンネルが開いたことによって、働く場所が伊那の方にも求めることができる。よって、自宅から、つまり家族でそこで生活をして通う。さっき、伊那市から木曽町の就業者数66人という数字がありましたが、実際には、これからもっと増えると思います。そうした若者が木曽地域に定住することによって、地域の例えば消防団や、色々な作業などの担い手となってそこに居続けることができる。こうしたことができるのも、トンネルのおかげだというふうに私は思います。

来年4月1日に、長野県の工科短期大学が信州大学のすぐ横にできます。今、生徒募集をしておりますので、ゼ

ひ木曽の方からもそこに応募してもらって合格してもらえれば、そこで勉強をし、この地域にも就職ができるし、木曽の方でももちろんありますので、木曽からも応募をどんどんしてもらえればと思います。ちょっと宣伝もさせてもらいたいと思います。

それから、本題ですが、私は、リニアは非常に画期的なといいますか、私たちが想像する以上の乗り物だと思います。世界でここにしかありませんので、世界中が注目をして、ぜひ乗ってみたいという乗り物になると思います。これが約11年後にはできる訳です。

そうしたときに、リニアを利用して、例えば品川から、あるいは、橋本がおそらく中心のステーションになると思いますが、そこから長野県の駅に来ました。降りたところで、別にどうといったことはない風景だと思います。住宅地の中にぽつんとあるような駅ですので、そこから、いかにトランジットするかということが大事です。中央高速を一つの手段として使って、伊那であれば小黒のスマートインターで降りて、そこから移動できます。あるいは、飯田線という大変遅い乗り物もありますので、これも魅力の一つだと思うんですね。

今、ぜひ計画してほしいとお願いをしているバイパス、これを利用して自動車でも移動もできる。つまり、バスを使ったり、無人運転になるかもしれませんし、そうしたものによって、いかに次のところの観光のステージに移動するかと。観光だけですね。

そうしたことを今から想定した連携を広域的に、日本海側と、あるいは高

山市さんと、長野県内であれば、大町もあるだろうし、色々なところと大きな大周回ルートを描いていく。しかも、春夏秋冬を考えて、今から準備をして発信して、そうした本にも載せていくとか。そうしたところで、オリンピックがあり、また、リニアの開通を迎えるということになると思います。

おそらく、今、1,700万人と言われているインバウンドの数字が2,000万人を間もなく超えると思いますので、そうすると、セントレア、羽田、成田空港では足りなくなって、地方空港をどんどん使います。今、国際便が富山空港をどんどん使っていますね。そうしたものを使いながら、リニアを使って移動をし、人の言葉を借りると、コンコルドが5分置きに飛ぶんだと、そういうイメージでいいのではないかと。

そうした皆さんをいかに、観光のルートを手前に提供して迎えてくるか。トンネルを越えて、昔ながらの奈良井宿の木曾の風景を楽しんでもらって、御嶽のあのとんでもない風景にびっくりして、高山に行くともた歴史と文化があって、金沢に行って日本海でおいしい魚を食べて、新幹線で東京へ戻るとか、そういうようなことをいくらかでも提案できると思います。

そうしたことは、もう市町村のレベルではなくて、広域エリアで考えていかなければいけないと思いますので、リニアには私は非常に注目もしておりますし、三遠南信の物流にも注目しております。これはもうアイデアと行動力しかありませんので、その中に、361号をしっかり組み込んで、日本海側と太平洋側を結ぶ大変重要なルート、災

害時にも使えるしと、そんなルートに今から育て上げていくことが非常に重要だと思っています。

あともう一つは、私達は、山岳というものを持っています。この361号は、北アルプスと中央アルプスと南アルプス、この3つを持っている訳ですから、山岳の発信も非常に重要だと思っています。

韓国では今、登山ブームといいながらも、高い2,000メートル以上の山はない訳ですので、皆さん、日本に来ます。そうすると、この3つの山岳を上手に結んで発信もできますので、こうした魅力も、私たちは常に頭の中に置いてプランニングしていかなければいけないのではないかと思います。

(高瀬) そうですね、点と点がしっかりあるのだけれども、その線を結んで、それをどう発信していくかは、何かいいネーミングがあれば、付けられるといいかもしれないです。

(白鳥) ネーミングといいますと、最近、かんでんぱぱの伊那食品工業(株)の塚越会長さんが撮られている写真を使ってカレンダーを出しています。年間10万部以上印刷して、伊那谷の四季という名前が今までありました。伊那、木曾の四季という、これが今「伊那バレー」と名前が変わりました。谷という表現から、リニアを意識して、あるいは、インバウンドを意識して、ナカバレーとかシリコンバレーみたいな、そうしたイメージの「伊那バレー」という言葉が使われ始めていますので、これも一つのいい着眼点かなとは思っています。

(高瀬) ありがとうございます。ほかに何かございませんでしょうか。お願いします。

(須藤) 先ほど会頭さんから、木曾から就職をしてということで、家を建てられたという、本当にありがたいお話を聞いて、ほっとしていますが。ちょっとマイナスのような話をして申し訳ないのですが、実は、Uターンで実家が木曾にあると。結婚して奥さんをもらうので実家へ帰ってきたいけれど、やはり、就職がなかなかない。先ほどの、本当に仕事ですね。そして、伊那の方で就職が決まったのでよかったということで、当初は通勤をしていたのが、通勤が面倒だから、まずアパートを借りましょうと。そして、快適になってきたので、やっぱり伊那に家を建てましょうと。そういう方達もいらっしゃって、これは多分、権兵衛トンネルが抜けていなかったら、逆に、塩尻や松本だったりするのかもしれない。

そういう双方向としては、どうしても自分たちの生活圏であるとか。私も南木曾町へ行ったときには、買い物は中津川に行っていました。30分のところは便利がいいです。木曾の人達もやはり、買い物は地元ですてよねと、今日は商工会の会頭さんがいらっしゃるので怒られそうなのですが、「買い物してよね」と言われるのですが、やはり大きなスーパーがあるとか、衣料品を買う、先ほどの医療もそうですが、便利さなどになると、行ってしまうことがあるので。それは、やはり道における双方向の部分では、しょうがないの

かなと思っています。残念ながら、仕事、職種が伊那の方であるということは非常にありがたいなと思っています。

会頭さんから、せっかくいいお話を聞いているのに、マイナスの話をして申し訳ありません。

(高瀬) いえ、視点としてはとてもいいと思います。職がなければ戻ってこられないと。

伊那市は、住みたい市の1位でしたっけ、何かありましたね。そういうことがあったり、定住促進に力を入れておられるということです。そういう面で、一番は職場が絶対に必要なので、この権兵衛のストック効果として産業が発展していけば、もっと工業、産業が誘致できて、色々なことができるようになってくれば、さらに働き場ができれば、住む人が増える。

さらに、先ほど工科大学ができるとおっしゃいました。あれは非常に大きいことだと思います。飯田の方々がよくおっしゃるのは、大学は、取りあえず、外に出なければいけないと。職があれば戻ってくるけれど、ないから、そのまま行ってしまおうと。飯田の商工会としては、自分達で頑張って育て上げていった子達が帰ることができる環境をつくってあげようということもされている。もちろん、伊那市さんもされています。

私も先日知ったのですが、長野県というのは電子関係の出荷額は全国2位になるそうです。中南信は、そんなに大規模ではないのですが、そういう秀でた素晴らしい技術を持った会社がいっぱいいる。それをいかに地元出身の

子達、Iターンでも、戻ってくる人でもいいんですけれども、そういうことを知らせていくのも非常に大きい。

その点も、361号というものの、例えば権兵衛トンネルが通ることによって、いろんな交流ができるようになれば、そういった面からも、またよくなるのかなとも思います。いいご提案をいただきましてありがとうございます。

伊那市では、定住促進にも力を入れておられるということですが、やはり、働く場が必要であるということと、働く場を生み出す力が、権兵衛峠道路のようなストックができれば、ストック効果として新たな産業を誘致することも可能です。そういった視点で何かありますでしょうか。

(白鳥) そうですね、上伊那というか、伊那谷というか、上伊那に限って言いますと、工業出荷額がだいたい6,500億円前後です。産業も、電子産業が、弱電関係、光学系、あと食品加工など、色々な加工を含めた産業が重層に重なり合っている、そんな産業構造なんですね。一方では、農業も盛んとは言いながらも、農業出荷額が2,400億円ぐらいです。

観光に至っては、県下最低で100～110億円です。でも伸びしろとすると、観光は非常に大きな伸びしろがありますので、これは木曽も高山も同じですが、観光に力を入れること、そうした産業を伸ばすことによって、そこに人々の働く場所ができてくる。また、農業も、林業も同じだと思うんですね。

そうした産業をその地域の産業として育てることによって、それを結ぶの

は道路であるということになるのではないかと思います。

リニアのことでいくと、実は、伊那谷、伊那バレーについては、リニアの駅ができますので、都会の皆さんがこちらに二地域居住として居住する可能性があります。一方では、木曽についても中津川から移動ができますので、リニアの駅があるのと同じことだと思います。そうしたことで、木曽地域にも二地域居住の場として提供できる可能性があります。

だから、色々なことの可能性を駆使して、そのことをまた提案したり、企画したりしていくことが大事ではないかと思います。

(高瀬) ありがとうございます。お願いします。

(川上) 先ほど、インバウンドの話がありました。高山市さんとか木曽さんは、そういうことで海外のガイドブックに盛られているという話で、ここ上伊那は載っていないということが非常にショックだったのですが、確かにそのとおりだと思うんですね。

そういった意味で、これからはやはり、観光というのは、361号が今整備されつつあって、トンネルもできていて利便性が高まっていることからすると、そういった広域の捉え方の中で、そのホスト地域をどうやって知っていただくかということに、我々はもっと力を入れてやるべきだなと、今、高瀬コーディネーターさんの話を伺って強く感じました。

また、白鳥市長さんとも、その辺は

タッグを組んで、ぜひ力を入れていきたいと感じました。

（高瀬） それでは、先進地区の高山市さんをお願いします。

（西倉） 今、岐阜県の飛騨地方は、高山市と、そして下呂市、飛騨市、そして白川村、この3つの市に合併後は再編されました。あと、白川村さんだけが単独で存続してみえる。この3市1村が新しい首長になられた後、「飛騨首長連合」をつくりました。行政が主導で担っていったら、議会側や、県議会の議員さん、さらには地元の商工観光の皆さんもあとに続くようなかたちで、できるだけ広域化を進めようとなってきました。

今、酒造組合は、飛騨酒造組合としてアルザスのワインの委員会と連携を取ろうとか、いろいろ新しい取り組みは進めていらっしゃいます。昔は、「飛騨は一つ」と言いつつも、飛騨は一つ一つやったなみたいな感じで、今はようやく「飛騨は一つ」になれたなみたいなかたちで、お互いに、そうしたことがあると知り合えて交流が深まってきました。自然と意識が醸成されてくるということです。

今ほど言った、観光地としての松本市さん、さらに金沢市さん、それと、今の伊那市さんや木曽のエリアの皆さんとも交流を深めることによって、お互いに知り合って、そして初めてお客様もご案内し合えるような、そういったものになるのかなと思っています。

そのためにも、361号の上ヶ洞トンネルを何とか早く、先ほど来お話があ

りますが、岐阜県の道路の方が来ていらっしゃるら何かお願いしたいと思っております。平成29年までかかっても、もはや着手から14~15年かかってくるような話になってしまっていて大変長くかかっています。何とか29年度の早いところに通通をしていただいて、そして、大型バスがきちんと入ることによって、先ほどの話にもありました、沿線の道の駅も本当に疲弊して何とか29年まではもたせようかと地元が一生懸命頑張っているような状況ですので、ぜひ皆様方も、高山の方へ361号を通ってお越しいただきたいと思います。

それと、もう一点、先ほど、木曽の須藤様からお話があったように、昭和61年に国から国際観光都市の指定を受けて、30年ほど、そうした取り組みを進めております。

高山は、観光地ではありませんが、ただ来てもらうというのではなくて、自分らのポリシーとして「住みよいまちは、行きよいまち」ということを言っています。要するに、そこに住んでみえる人が住みやすいまちこそが、よそから観光にみえても、やはり「行ってよかったな」と思えるまちということです。住みよいまちは、行きよいまち、そのためにはいろんなバリアーなどを取ってユニバーサルデザインを進めようとしています。自分達が外へ行ってトイレに入ったときに、何か臭くて使いたくないなというものは、誰が来たって、やはり、そういう思いをしていらっしゃるだろうと思います。

ユニバーサルデザインのまちづくりという意味では、物理的なバリアーを取ったり、さらに情報のバリアーを取

ったり、制度のバリアーを取ったり、意識、心のバリアー、その4つのバリアーを取ることによって、自分達も住みやすいし、また、来てもらう人達にとっても「いいまちだ」「よかったな」と思ってもらえるのではないかということで、トイレ改修から、道路の整備、さらに意識、心のバリアーとしては、誰が来ても友達のようにお話ができるようにと考えています。

居酒屋のおかみさんなんかは、外国の方が来てもお話ができないのに、居酒屋に地球儀を置いておいて、「あんた、どこから来たの?」と言って、「うちはここですよ。あなたの国は?」と言うと、こんなに遠いのかというところから心が触れ合うというような取り組みを、それぞれの皆さんが色々考えていらっしゃいます。

そうした意味では、ぜひ自分たちのまちを大切にするような、市民の皆さんと一緒にまちづくりを進めることが、また、大きく発展することなのかと思っております。これからも、そうしたまちづくりを進めていきたいなと思っています。

(高瀬) ありがとうございます。そのまま、我々も考えていかなければいけないことなのでしょう。

色々とお話をいただきまして、権兵衛峠道路開通10周年で、361号をいかに、高規格とまでは言わないですが、観光バスが自由に行き来できるような道路が必要であるということは、多分皆さん、一致されていることもあり、それをハード面として整備をしていただくことも重要であると思います。

さらには、自分達でそれをどう活かしていくのかが、一番はアイデア次第だと思います。それで、ストック効果というのは、黙っていても出てくる部分も多少はあるのですが、いわゆる、今までの便益的な部分として、時間が短縮されるという部分に関しては、確かに、そこから派生していくものは、ある程度の効果は必ず出てきます。しかし、それを2倍にも3倍にするには、やはり地域のアイデア、力が大事だと思います。

本当に小さな、先ほどのトイレのお話から、色々なホスピタリティーの部分まで、全部を考えていくことによって、何倍も効果を上げていくことが多分皆さんの共通の認識だと思います。会場にいらっしゃる皆さんも、同じような認識でいらっしゃるかと思います。

最後に、一言ずつ、何か言い残したことがございましたら。

(白鳥) 道路ができて完成して、じゃあ、観光バスが通ればいいのかというだけではありませんので、伊那谷、この地域の私達は、木曾の皆さんと一緒に、公共交通を何とか走らせることを考えなければいけないと思います。電車で来たお客さんをこちらに、あるいは、こちらに来たお客さんを公共交通で木曾の方に、また、そこから高山へ送り出す。これは、非常に重要なテーマですので、そうしたことをやっていくことが必要だと思います。

もう一つは、看板も一つ大事な事かなと思っています。見にくい看板をだんだんになくし、見やすい看板にしていく、看板が必要かどうかという議

論も、この中でやっていくことが必要だと思えます。

さっき、飛騨は一つという話もあったのですが、実は、この361号の話も6年ほど前に国土交通省の方から、首長同士がきちんと連携しないと、いつまでたってもできませんよというアドバイスをいただきました。それで、高山の市長さん、木曾の町長さんと、私で、曙交流文化圏という名前で、年間2回ほど、色々な意見交換をしたりして、高山で、木曾で、伊那でやってきたのが、だんだんにいいかたちになってきたなと思えます。これをもうちょっと広い範囲のくくりで、またつながっていくといいのではないかと思っています。以上です。

(高瀬) 続きまして、西倉副市長、お願いします。

(西倉) ほんとに道路は嘘をつかないとか、道路をしっかりとつくっていただくことによって、あとは、自分達がそれをいかに使うのか、利用するかということにつながっていけると思うんです。

JRは、駄目なんです。JRは、線路をつくってもらっても、そこを走らせたりするのは、もうJRが「いい」と言わないといけない。自分達は、そういった意味で、道路というのは本当に嘘をつかない大事な道、基盤なのかなと思っています。

それと、一つ何かをやるについては、物語性というのが、やることをみんなが理解できるようなストーリー性などそうしたものをバックボーンに持って

いくと、よりいいのかなと思っています。そうしたものをぜひ、また、みんなで知恵を出しながら考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(高瀬) それでは、川上会頭、お願いします。

(川上) この権兵衛トンネルが開通して10年、それから、今、お話がありますように、その周辺も着々と整備が進みつつあるということでした。そういう中で、それぞれの地域の皆さんが、それぞれの地域をどうやって活性化するのか、活用するかということそれぞれの立場でお考えだと思います。

私が商工会議所会頭という立場で、会員の皆さんによく言いますが、これからは「差別化」だと言って皆さんがやるのだけれど、皆さんがそれぞれ頑張っているのだけれども、一番大切なのは、圧倒的な差別化ということをやらないと、その地域、その会社、それが光ってこないと思います。

その「圧倒的な差別化」とは何だろということは今考えるようにしています。それぞれの地域には、それぞれの資源、また、素晴らしいものがありますので、我々も、そういった意味で、この上伊那、伊那の圧倒的な差別化ができる素晴らしいものを光らせていく、そういうものを活用していくということが、今日のこのお話の中で、非常に大切なかなと感じました。また、そういうことを行政、市と我々、また、農協さんなど、それぞれの立場で力を合わせてやっていこうかなと、また気

持ちを新たにさせていただきました。
ありがとうございました。

(須藤) 私は、道路 361 号を見ていて、先ほど、高速規格といいますか、いい道路なんですね。それで、信号機がなくて、坂道も当然あるわけですが、ついスピードが出てしまうところが何か所かあります。できれば、これは要望というか、つい、スピードは出すつもりはないのだけれど、下りになると、もうブレーキをかけながらでも、どんどん行ってしまう、それぐらい素晴らしい道路ということです。また、信号機がないんですね、これは自慢できることではないかなと思います。

特に冬場ですが、新地蔵トンネルを越えると、ぐっとう下がっています。また、権兵衛を抜けると、伊那に入るときに、ぐっとう下がってくるんですけど、スピード違反はするつもりがないのに、ついスピードが出過ぎてしまうのは、いい道路をつくりすぎていただいているおかげかなと思いますが、ちょっと、スピードを抑制するようなことができないかなという願いをしたいと思います。

先ほど、市長さんから 2 次アクセスの話があったのですが、今、私どもの旅行事業の関係者は、車の免許がない訳ではなくて、長い時間は乗りたくないと思っています。そういった意味では、逆に、飯田線があって、中央線があって、高山線があるということで、隣のところなので、レンタカーが借りられればと思います。それもレンタカーでなくても、乗り捨てというサービスができてくれば、短い区間だけで、

そういったところは次の移動手段としていいという声があります。

できれば、バスを動かすというのは確かに大変ですし、そういったものが動くことが一番望ましいのですが、すぐにはできないのではないかと思うので、できることをまずお願いしていきたいなということです。

もう一点は、「日本で最も美しい村」連合が、今年で 10 周年ということで、木曾町で 10 周年の大会がございました。実は、この「日本で最も美しい村」連合を巡る旅というかたちをキーワードにして、岐阜県でいいますと、馬瀬さんと、東白川さんですかね、そして、木曾町を抜けまして、今度は高遠町、大鹿村があって、中川村、そして南木曾町というようなかたちで、本当に美しい村を巡る旅というようなものが、これからは、成熟した旅行者達が、外国人を含めて、求めてやってくると確信しています。できれば、そういったところをつなげていけるようなかたちで、お願いしたいと思っています。

(高瀬) ありがとうございました。時間も参りました。最後に白鳥市長さんが、3つの自治体で「曙交流文化圏」といった集まりがあるということで、どんどん地域を盛り上げていただけて、ストック効果をいかに高めていくかということに、アイデアマンの首長さん達なので期待していますので、ぜひとも、よろしく願います。

まとめるというよりも、色々なお立場の皆様の見解、いろんな意見がございいます。それから、基調講演をいただいたお2人の講師の先生方等のお話を

皆さんに持ち帰っていただいて、色々な方にお話しいただいたりして、地域をどんどん盛り上げていただければありがたいと思います。

本日は、拙いコーディネーターで申し訳ございませんでした。それでは、パネルディスカッションを締めたいと思います。ありがとうございました。

【閉 会】

閉会の言葉

国道 361 号改修促進期成同盟会 副会長 木曾町長 原 久二男

限られた時間ではありましたが、大変貴重なご意見、ご提言をいただいたのではないかと思います。今日ご出席いただいた皆さん、最後までご聴講いただきまして本当にありがとうございました。

私どもの期成同盟会は、今月初めに上京いたしまして、それぞれの改修要望を国にも上げて、これからも、それぞれ国や県の皆さんへお願いをしながら、順次、道路改修にしっかりと取り組んで参りたいと思っております。

今日のお話の中にもありましたように、岐阜県側のネックでありましたトンネルが、平成 29 年中には供用開始になるということで、これによりほぼ改修が済んで、大型バスの通行もスムーズになるであろうと思います。また、伊那、高山間の時間短縮も図られるのではないかと思います。

私ども木曾町の開田高原、九蔵峠はカーブが多くて、特に冬期間は通行困難な場所もありますが、これも、来年以降、県の方で調査費を付けていただいて、順次改修をしていただけるといふ段取りになりました。ですから、いよいよ、今日のテーマでありますストック効果、さらに、地域の将来像を含

めてどう連携をしていくか、そういったところの真価が問われる時代に入ってきたのではないかと考えております。

私ども行政も含めて、地域の皆さんともども、地域の特色を出しながら、また、今日は、どちらかというところ、権兵衛峠道路の開通 10 周年ということで、伊那、木曾のお話を中心であったわけですが、私ども木曾と伊那谷は、広域連携ということで観光では連携会議をもって、今までも連携をしてきております。今日の高山市副市長さんのお話にもありましたように、高山市とも、そういった広域連携も含めた取り組みも、これから強化をしながら、361 号を一つのライフラインにして、しっかりと文化圏をつくっていかれると思っています。

閉会にあたりまして、今日は、貴重な基調講演をいただいたお 2 人の皆さん、それから、パネラー、またコーディネーターということで、限られた時間ではありましたが、パネルディスカッションをしていただきました皆様に心から御礼を申し上げながら、閉会にあたりましての御礼のご挨拶にさせていただきます。どうも大変ありがとうございました。